



インタビュー **津田裕也さん**  
(第3回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門優勝)

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止されていた仙台フィル演奏会。再開後初の開催となった第338回定期演奏会でソリストとして演奏するために帰仙した東京藝術大学准教授、津田裕也さんにインタビューしました。  
(インタビュー日：2020/7/23)

**仙台国際音楽コンクールの振り返りと第8回（2022年開催予定）仙台国際音楽コンクールに出場したいと考えている若い音楽家にアドバイスをお願いします。**

私は、地元出身で高校卒業まで仙台で生活をしていました。仙台国際音楽コンクールは、第2回（2004年）から出場（セミファイナリスト：聴衆賞受賞）し、第3回（2007年）で優勝させていただき、自分自身もびっくりしました。この優勝をきっかけに仙台フィルをはじめ多くのオーケストラとの共演やアンサンブル、ソロコンサートなどの機会に恵まれピアニストとして飛躍するきっかけになったコンクールだったと思います。

あれから十数年が経ちコンクールに出場する立場から、コンクールに学生を送り出す立場（東京藝術大学准教授）となりました。

若い音楽家はコンクールに出場するために多くの課題曲を練習しなければなりません。コンクールのステージ上は緊張感、プレッシャー、審査されるという不安で一杯です。自分自身が信じる音楽、愛する音楽をできるだけ練習をしてコンクールに臨んでもらいたいです。

**バスカル・ドゥヴァイヨン氏に師事するためにベルリンに留学されたと伺っておりますが、彼から学んだことやベルリンでの一番の思い出をお話ください。**

先生の1音、1音に対する真摯な姿勢、作品ごとに独自の解釈、探究心があるところを尊敬していて、ベルリン芸術大学の留学を機に師事することになりました。

ベルリンは、多くの演奏会、バレエ、オペラ等をはじめとして街に音楽が溢れていて日本では考えられない、すばらしい音楽環境があります。留学中は学生料金（低価格）でコンサートを観ることができ、とても良い経験となりました。このコロナ禍が収束し、自由に移動できるようになったらまた訪れたい土地です。（ベルリン在住期間2007年～2015年）

**何度も仙台フィルと共演されていますが一番の思い出や印象深いことは？**

小さい頃から青年文化センターで仙台フィルのコンサートを聴いていた私が、仙台国際音楽コンクールをきっかけに多くのコンサートで共演させていただき本当にありがたく、感謝の気持ちで一杯です。楽団の皆さんは親切で、楽団員同士も親密な印象で、それが音にも表れていると思います。

小さい頃から憧れのオーケストラで初めて共演したのは私が二十歳の時（第2回コンクール）でした。その頃は楽団の皆さんがすべて年上でしたが、あれから年月が経ち、現在では年下の方もいて時間の経過を感じますし、私ももっと成長していかなければと考えています。



津田裕也さん

**新型コロナウイルスの影響が続いていますがこの期間、どう過ごされておりましたか？**

コロナ禍の中、予定していた4月、5月、6月のコンサートはすべて中止又は延期となり、ステイホームの日々で遠出もできないので、気分転換に人のいない時間に自宅の周りを散歩したり、自分自身の練習をしたりしていました。また、私は味噌汁が大好きで帰省の度に必ず持ち帰る宮城の岩出山の味噌を使った具沢山味噌汁を作るなどして過ごしていました。あまりお酒は強くありませんが、自宅で宮城の日本酒や留学していたドイツのビールや白ワインを飲んだりしたこともありました。

私は対面で教えることが本来の授業だと考えておりますが、東京藝術大学は一時、大学に立ち入り禁止で対面の授業ができず、慣れないオンライン授業を導入しました。ネット環境が安定せず、音のずれなどあって大変でしたが先生方と相談して学生の演奏をYouTubeにアップしてもらい、授業ではその動画を観てオンラインでアドバイスを学生に伝えました。学生が自分自身で何度も動画を撮り直し、納得するまで課題曲を演奏することにより、自分の演奏を客観的に見つめることができたことが、オンライン授業での成果の一つと感じました。

**再開される仙台フィル第338回定期演奏会（2020年7月24日・25日）に共演される想いや聴衆へのメッセージを聞かせてください。**

私にとってもコロナ禍後、初の演奏会（ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」）になり憧れの仙台フィルと共演ができ、嬉しく思っております。ベートーヴェンの前向きな強いエネルギーを感じる作品で生音の力をお客様と共有できることを楽しみにしております。



2015年にスタートしたこの連載も12回目。今回はヴィオラソロ首席奏者 井野遼大輔さんにお話を伺いました。

**音楽との出会いと大学時代にヴィオラに転向された経緯を教えてください。**

ヴァイオリンは4歳から、やらされていました(笑) 高校時代のオーケストラの授業でヴィオラの魅力に取りつかれてしまい、その後の桐朋学園での6年間は週1回のヴァイオリンのレッスン以外、ほとんどヴィオラを弾いていました。大学はヴァイオリン専攻で入学したのですが、私の尊敬する先生が別の大学の先生になられたのを契機に、その大学に編入し本格的にヴィオラを学ぶことになりました。

**ヴィオラのオーケストラでの役割とは？**

野球なら「キャッチャー」、サッカーなら「ミッドフィルダー」ですね。どちらもグラウンドを俯瞰でき、ゲームメイクする役割を担っています。ヴィオラにも同様の役割があり、作曲家もそれを分かっていたというのが私の意見です。ヴィオラには細かい十六分音符や八分音符が多く振り分けられており、そこを動かせばオーケストラが推進力を得たり、音楽がリラックスしたりすることを、作曲家自身も知って書いていたように思います。指揮者の近く、オーケストラを見渡し全てを把握できる位置にいるヴィオラには数多の音の情報が集まってきます。あるセクションがどこのパートを聞き逃しているかも「一聴瞭然」と分かりますので、音色とスピードをコントロールし、事故を回避する注意を促したり、立て直すことが可能です。また、時には指揮者に対して「この場面では作曲家はこういう意図なのでは？」と音に情報を載せ、サインを送ります。良い評価を受けるオーケストラはヴィオラが機能性に富んでいて、実に音楽をよく知っています。私もようやくその塩梅というのが分かってきたのでしょうか……。オーケストラが弛みそうな時、少し音のレスポンスを上げていくと、反応してくれる指揮者がちらほら出てきたのは嬉しいことです。

**新型コロナウイルスの影響で演奏活動ができなかった期間、どう過ごされていましたか？**

家では、デザート作りと高野豆腐にはまっていた(笑) 仕事では、演奏活動はきわめて限られていましたので、オンラインレッスンでの教え方を研究しながら、学生や卒業直後の若手に対しての教育に力を入れていました。オンラインは「音」に関しては期待できませんが、逆に映像の強みを活かし、身体の動き方を自身に把握させるなどの機能面の習得を通して、社会人となってから要求される「自分の頭で考え、自分と向き合う習慣」を身につけられるよう工夫して授業を行っています。それがひいては、これから仙台フィルに入ろうと思ってくれるような若手にも伝播すると信じています。

**再開される定期演奏会への想いを聞かせてください。**

仙台フィルとしては約5ヶ月振りの演奏となります。今日はこう聴きたいという、お客様の空気感は舞台に出ていった瞬間に分かります。そのような空気感を感じながら、作曲家との時間を皆さんと共有できる日の再開は幸せの極みですね。  
(インタビュー日 2020年7月23日)



仙台フィルハーモニー管弦楽団  
ヴィオラソロ首席奏者  
井野遼大輔さん

～第338回仙台フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会レポート～

7月24、25日に日立システムズホール仙台コンサートホールで仙台フィル第338回定期演奏会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、4か月半振りの開催です。演奏曲目はベートーヴェンのピアノ協奏曲「皇帝」とドヴォルザークの交響曲「新世界より」。ピアノは仙台出身、第3回仙台国際音楽コンクール優勝の津田裕也さん、指揮は第7回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門でもタクトを取られたレジデント・コンダクターの高関健先生です。感染症対策が徹底され、来場者、会場スタッフの全員がマスク着用。客席は前後左右を空けた配席で、定員の半分に入場制限。演奏終了後のブラボー等の掛け声や、終演後の出演者・関係者へのプレゼントや出待ちは禁止です。どんな演奏会になるのかとても不安でしたが、高関先生のプレトークを聞き、オーケストラのチューニングが始まった時点でようやく平静な気持ちになることができました。

津田さんと高関先生が入場し、一瞬の静寂。オーケストラの和音に続いて、ピアノの独奏が始まった時点でハンマーで一撃食らったような衝撃を受け、思わず涙が。第2楽章はピアノと弦楽器が奏でる祈りの歌、華やかな輪舞が繰広げられるフィナーレ。演奏終了後、これまでに経験したことのない、満足感に満たされました。

後半の新世界は、仙台フィルが、東日本大震災発生から4か月ぶりに復帰した際に演奏された曲。第1楽章の序奏からティンパニーの一撃、第2楽章の有名なラルゴの旋律、鋭いリズムの第3楽章、圧倒的な第4楽章。ほんとうに魂を揺さぶられる演奏でした。

ブラボーの掛け声はもちろんありませんでしたが、多くの方がスタンディング、自らの気持ちをボードに書いて舞台上に提示する姿がありました(私も準備していましたが)。

今回の演奏会を通じ、音楽が持つ強さ・すばらしさを再認識することができました。このような時期だからこそ音楽は必要なのです。

(鑑賞日 2020年7月24日(金))



写真提供：仙台フィルハーモニー管弦楽団



皆様も毎年「せんくら」を楽しみにされていることと思いますが、新型コロナウイルス感染症の影響から、今年の開催は中止となることが7月に発表されました。私たちボランティアもとてもがっかりしていたところ、「クラシックエール 仙台」が10月に開催されることとなり、一転して大変嬉しく開催を待ち遠しく思っております。

開催期間の短縮や、会場も1か所になるなど、従来の「せんくら」から規模を縮小して開催されますが、今できる形での企画により、生の演奏を楽しめることの幸せをかみしめたいと思います。

プログラムの特徴は、何といてもベートーヴェン生誕250周年にちなんだ選曲ではないでしょうか。

例年の「せんくら」では、バロックから現代まで幅広い年代を代表する作曲家の作品が演奏されていましたが、今回はベートーヴェンの代表的な作品の他、三味線でのアレンジや彼に強い影響を受けた作曲家の作品など、ベートーヴェンを様々な堪能できる濃密な2日間となることでしょう。

全15公演、どれも工夫が凝らされた垂涎の演目なので、全てをご紹介したいのですが、ここでは仙台国際音楽コンクール出場者の方々が出演する公演をピックアップしてみたいと思います。

**開催期間：2020年10月3日（土）～10月4日（日）**

**会場：日立システムズホール仙台（青年文化センター）**

◆津田裕也さん（第2回 ピアノ部門出場、第3回 ピアノ部門優勝）

公演No.2 10月3日（土）13：45～

『津田裕也ピアノ・リサイタル ベートーヴェン晩年のソナタとベートーヴェンを敬愛したシューベルトの即興曲』  
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第31番 作品110、シューベルト：即興曲 作品90より 第2、3、4番

◆佐藤彦大さん（第4回 ピアノ部門第3位）

公演No.5 10月3日（土）16：30～

『ドイツ3大Bを聴く バッハ、ベートーヴェン、ブラームス』  
ブラームス：6つの小品 間奏曲 イ長調 作品118-2  
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第5番 作品70-1 「幽霊」ほか

公演No.11 10月4日（日）14：00～

『まだまだあります！ピアノ・ソナタ —ピアニストの登竜門とベートーヴェン』  
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第26番 作品81a 「告別」

◆菅原望さん（第6回 ピアノ部門出場）

公演No.11 10月4日（日）14：00～

『まだまだあります！ピアノ・ソナタ —ピアニストの登竜門とベートーヴェン』  
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番 作品31-2 「テンペスト」より 第2、3楽章

◆北田千尋さん（第7回 ヴァイオリン部門第4位）、篠原悠那さん（第5回ヴァイオリン部門出場）

公演No.12 10月4日（日）12：30～（カルテット・アマービレのメンバーとして演奏）

『王道のカルテット モーツァルト～ハイドン～ベートーヴェン』  
モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジークより 第1楽章  
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第11番 作品95 「セリオソ」 ほか

◆大江馨さん（第6回 ヴァイオリン部門出場）

公演No.14 10月4日（日）11：00～

『奇跡の競演！7人のサムライによる七重奏曲』 ベートーヴェン：七重奏曲 作品20

公演No.15 10月4日（日）18：00～

『ベートーヴェン生誕250年記念 豪華プレミアムコンサート』  
ベートーヴェン：ロマンス 第2番 作品50 ほか

コンクール出身者の方々の演奏を間近で聴けることや、活躍の様子が伺えることは、とてもうれしいですね。

最後になりますが、コロナ禍にありながらも、出演を決めてくださったすべてのアーティストに心から感謝するとともに、大きなエールを送りたいと思います。アーティストの皆さん、ありがとうございます♪

皆さんの演奏を生で聴けることを楽しみにしています♪

Concerto読者の皆さんも、お気に入りのアーティストや興味のある演目に、是非足をお運びください。

プログラム詳細、チケット販売状況等はこちらをご参照ください。  
クラシックエール仙台公式ホームページ <https://sencla.com/yell/>



## 「クラシックエール仙台」へご出演の皆様からのメッセージ

ベートーヴェンの生誕250周年にあたる今年、音楽活動はコロナ禍の中で大幅な制限を受けました。ベートーヴェンは人生半ばにして「難聴」の病に侵されながらも作曲を続け、偉大な作品を数多く後世に遺しました。出演者それぞれの「クラシックエール仙台」、そしてクラシックファンへの想いが伝わってきます。

### 津田裕也さん（第2・3回ピアノ部門）



©Christine Fielder

歴史ある仙台クラシックフェスティバルが中止となり、とても残念な思いでございました。仙台は、私の出身地でもあり仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバル等、音楽に対しても温かく優しい街です。

ベートーヴェンの晩年の傑作ピアノソナタ第31番と、ベートーヴェンを尊敬していたシューベルトの作品でプログラムを組みました。落ち着かない世の中ですが、会場で皆様と音楽を共有させて頂けます事を心から感謝しています。

### 大江馨さん（第6回ヴァイオリン部門）



©Shigeto Imura

コロナ禍で次々とコンサートや音楽祭が中止になる昨今ですが、今年はクラシックエール仙台という新たな形で、故郷仙台に音楽が満ちる日々が訪れ、そして私も出演させて頂けることを心から嬉しく思います。音楽ができること、そしてお客様にお聴き頂けることの喜びやありがたみをいつも増して実感する日々です。寒さの中で飲む美味しいスープのように、仙台の皆様的心里に染み渡るような音楽をお届けできたら幸いです。

### 佐藤彦大さん（第4回ピアノ部門）



©Kazashito Nakamura

「せんくら」は残念ながら開催されませんが、代わりに「クラシックエール仙台」の開催は音楽を愛する全ての方に嬉しいイベントとなりそうです。本当に有難いことです。今年はベートーヴェン生誕250周年！それに因んだ2公演に出演致します。ソロもありますが、神谷さん(Vn.)、原田さん(Vc.)とのトリオが楽しみです。公演を通してベートーヴェンの崇高な芸術を皆様と一緒に共有したいと思っております。

### 北田千尋さん（第7回ヴァイオリン部門）



「クラシックエール仙台」への出演、大変嬉しく思っております。コンクールから1年以上経ちましたが、また再び仙台に伺い演奏できることをとても楽しみにしています。

今回は私がいつも一緒に弾いているカルテット・アマーピルのメンバーとともに演奏いたします。聴き馴染みのある曲から私たちの思い入れのある曲など様々な曲をお届けしたいと思っております。カルテットの魅力を存分に伝えられるよう頑張ります。



### 菅原望さん（第5回ピアノ部門）

今年、クラシックを愛する方々にとっての毎年の楽しみであるせんくらが中止になってしまったことは僕としてもとても残念に思っています。そんな中でクラシックエール仙台が開催され出演させていただくことは何より嬉しく、お聴きいただく方々の胸に響き、癒しを届けられるよう誠心誠意思いを込めて演奏させていただきます。音楽を共有できる幸せを与えてくださったことに心より感謝いたします。

## 読者アンケート&コンクールオリジナルグッズプレゼント

“Concerto” 読者の皆様、いつもご愛読、ありがとうございます。“Concerto” をさらに魅力的かつ充実した広報紙にするために、皆様の貴重なご意見をお寄せいただきたく、ご協力をお願い申し上げます。

質問内容は2つです。

- (1) 興味を持ってお読みいただいている内容の番号をお答えください（複数回答可）。
  - ① 冒頭インタビュー
  - ② 仙台フィルハーモニー管弦樂團をもっと知ろう！コーナー
  - ③ 仙台フィルハーモニー管弦樂團定期演奏会レポート
  - ④ クラシックエール仙台 コンクール出場者出演情報
  - ⑤ 「クラシックエール仙台」へご出演の皆様からのメッセージ
  - ⑥ その他（ ）
- (2) “Concerto” へのご感想、ご意見などをご記入ください。

10月末日までにご意見をお寄せいただいた方に第7回仙台国際音楽コンクールオリジナルクリアファイルをプレゼントいたします。

皆様のご意見は以下の方法でお待ちしております！どうぞよろしくお願いいたします。

郵送：〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 仙台国際音楽コンクール事務局「コンチェルト・アンケート係」  
FAX：022-727-1873 メール：volunteer@simc.jp

記入事項：お名前、ご住所、電話番号、回答（1）、回答（2）

※個人情報情報はプレゼントの送付の目的のみに使用いたします。

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア



問合せ：仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp